

祝創立100周年と東日本大震災義援金について

北光会会長 菊池 芳郎 (GS34)



創立100周年誠に
おめでとうございます。
平成23年10月1日、秋
田大学工学資源学部創
立100周年記念式典が
挙行されました。

秋田大学工学資源学
部は、その前身である
秋田鉱山専門学校が明治43年に地下資源開発
技術者の養成を目的に設立されてから、戦後昭
和24年新制大学として秋田大学鉱山学部とな
り、更に平成10年秋田大学工学資源学部と名
称を変え、本年で100周年を迎えました。

この間、一貫して広い意味での資源開発に関
する教育を行い、人材を世に送ってきました。

最近、本校は資源教育の拠点と認められ教員
の増強等破格の恩恵を受け「国際資源学教育研
究センター」が設立され、我が国の資源教育の
中心となってボツワナ、モンゴルなど資源国に
対し協力支援することになりました。

誠に喜ばしいこととお祝い申し上げます。
これが出来たことは、今日までの100年
間にわたり研究と教育をなされてきました歴代
の諸先生と業界で活躍してきました卒業生皆様
の賜であることを忘れてはなりません。

しかし、このことは我が国の資源外交の一翼
を担うものです。資源外交は言葉を換えれば資源
競争・資源戦争であります。

競争であれば、これは勝たなければなら
ません。今後の更なる学術研究の発展と教育の
充実を期待するものであります。
北光会としても協力を惜しむものではありません。

創立100周年記念事業の一つに鉱業博物館の

作者：事務局管理者

2011年 11月 29日(火曜日) 16:56 - 最終更新 2012年 5月 23日(水曜日) 11:22

拡充・整備があります。

鉱業博物館は創立50周年の記念事業として昭和36年に建設され、10月8日に昭和天皇、皇后両陛下の御臨幸を仰いで開館致しました。15日には創立50周年の記念式典を行い一般に公開されました。

その後、鉱業博物館創立30周年で展示物のリニューアルを行いました。鉱業博物館について学外の皆様からは、お世辞を含めてと思いますが素晴らしい博物館であるとの声を聞きました。しかしながら卒業生からは展示物のことで色々な意見が聞こえてきました。その最たるものは「あれでは恥ずかしい」との一言でした。そこで、この度の創立100周年の記念行事として鉱業博物館の拡充・整備を行うことになりました。

私には建設当時の思い出があります。50年前の10月初めに鉱業博物館の工事現場を見学に行きました。道路工事をしておりました。そうしましたら加賀谷先生が私の手を握って涙を流して感謝の言葉を述べられました。私はその時、驚いて良く意味が分かりませんでした。

それは両陛下が御臨幸されるため、宮内庁で事前に道路を調査したところ、この道路ではアスファルトが弱く陛下の自動車は通れない、と云われました。残り日数も少ないのですが、急遽工事をやり直すことになりました。当時工事用の重機を持っているのは自衛隊と私の勤めている会社ぐらいでした。

私が勤めていた頃、鉱業所の所長は寺井和志歳さんと云いまして大正15年採鉱卒の先輩でした。寺井さんは会社の重機を提供して緊急工事を行ったわけです。加賀谷先生は、これに対するお礼でした。

加えて建設資金の返済など大変苦勞して、この鉱業博物館は完成しました。

今回の拡充・整備事業で我々後輩卒業生として、加賀谷先生・井先生を初めとした鉱業博物館建設当時の諸先輩のご苦勞に何万分の何か何百万分の一でもお手伝いできたのかと思っております。

鉱業博物館は学校の一般研究はもとより国際資源学教育研究センターにも貢献できるものです。更に社会一般に開放され市民の生活向上に寄与することも大切なことです。今後の鉱業博物館の発展を祈るものです。

今回は巻頭言ですが、ここで募金状況についても一言述べておきます。最初に、この記念式典や鉱業博物館の拡充・整備の出来ましたがことは、ご芳志を賜りました皆様のお陰と厚くお礼申し上げます。

10月31日現在、募資金額は4,544名(件)総額1億9,787万円、内訳は

企業	261社	5,897万円
篤志家	20名	151万円
教職員	180名	1,138万円
学部後援会	13回	2,963万円
北光会	4,070名	9,638万円

であります。

募金期間は9月30日で締め切られましたが、まだ寄付をりたいという会員や企業がおりますので、引き続き寄付をお受け致しますので宜しくお願い致します。

次に東日本大震災ですが、会員の被害状況を調査した結果、直接津波災害による死亡者が4名、避難先などでの病死者が2名、家屋などに被害を受けられた方が30名近くおられました。改めて、犠牲になられた方のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災されました皆様には衷心よりお見舞いを申し上げます。北光会としても、義援金募金を行うことに致しました。皆様のご協力をお願い致します。

作者：事務局管理者

2011年 11月 29日(火曜日) 16:56 - 最終更新 2012年 5月 23日(水曜日) 11:22

この災害で思うことですが、「天災は忘れた頃に来る」は寺田寅彦博士の有名な警句ですが、博士の著作には直接この言葉はありません。しかし、多くの著書を見ますと、このような警句を述べていると云われております。

その中の一つに大正9年に発表された「天災と国防」があります。

博士はこのなかで「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増すという事実である」と述べております。

このことは、人類が未開な頃は洞窟の中に住んでいて、たいいの地震や暴風でも平気であったろうが、文明が進むに従って人間は次第に自然を征服しようとし、重力に逆らい、風圧水力に抗する色々な造営物を作った。これが災害で壊れ被害を大きくする、と云うことを述べております。今回の災害でも大丈夫と思われた防波堤の破壊など大きな被害がありました。

その最たるものは、現代の科学と文明の賜と思われた原子力発電所が破壊され、大変な災害となったことです。

想定外の津波と云っていますが、今回の津波と同程度の津波が既に869年の貞観津波で知られておりました。これに対する対策は取られておりませんでした。

原子力は安全と云うもに、原子炉冷却水の除染装置や原子炉建屋内の自走ロボットなどの対策さえ取られておりませんでした。

原子力関係者は本当に「原子力発電は安全」という思いでいたのでしょうか。物事には絶対安全ということはありません。

我々は今回の事故を反省し教訓としなければなりません。それにしても、その代償は余りにも大きいものでした。

8月27日東北支部「震災復興がんばろう大会」に出席の折、津波の被害跡を見てきました。被害の甚大さと津波エネルギーの大きさに、ただただ驚いてきました。更に復旧・復興作業の遅れていることを実感してきました。